

令和5年度 学校自己評価表 （年度当初）

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。
	2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。
	3 様々な教育活動をとおして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。
	4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
重点目標	1 心身ともに健やかな生徒の育成
	2 生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり
	3 地域に愛され、信頼される学校づくり
	4 専門教育の推進

年度当初				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策
1 心身ともに健やかな生徒の育成	基本的生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	・「挨拶」「時間」「身だしなみ」の3点を中心とし、基本的生活習慣の確立を目指している。 ・礼法指導、遅刻指導、整理整頓指導、清掃指導などを通じて、生活習慣を整える習慣を身につけさせたい。 ・「時間」を守ることにについては、学科・学年と連携して指導している。（「防げる遅刻」の年間実績は53回となり、昨年度より12回増加している。遅刻回数においては年々増加している傾向である。）	・年間で「防げる遅刻」を24回以下とする。（昨年度は目標を20回以下と設定し、53回） ・校外外で明るく気持ちのよい、心のこもった挨拶ができる。 ・学校アンケート（保護者）の『規律・マナー』項目の「1・2」評価の平均を90％以上とする。（昨年85％、一昨年87％） ・学校アンケート（生徒）の『挨拶』項目の「1・2」評価の平均を90％以上とする。（昨年91％、一昨年87％） ・学校アンケート（生徒）の『学校のきまり』項目の「1・2」評価の平均を90％以上とする。（昨年93％）	・年間の「防げる遅刻」の目標を生徒会執行部との協議の上設定し、生徒主体で取り組めるように働きかけをする ・教職員で率先して「あいさつ」することを共通認識し、また、授業内での「あいさつ」指導も年度当初の重点目標と位置づけ全教職員で取り組む。 ・朝読書を8時35分にスムーズに始められるよう、5分前の8時30分着席の指導を生徒会執行部、教職員で実施していく。（生徒会執行部からの声掛け運動、あいさつ運動と連携して教職員の教室での声掛け運動を計画） ・生徒の進路実現、自己実現を見据えた中で、生徒が主体的な行動者となるよう、授業、部活動、学科、生徒会執行部と連携し、教職員の共通認識を大切に指導していく。
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	・今年の4月時点の部活動等加入率（1年94％ 2年91％ 3年80％） ・生徒会執行部の学年別構成（1年0人 2年7人 3年19人） ・執行部会は生徒会行事前にのみ開催 ・学校生活アンケート結果（昨年の7月→12月）学校行事に楽しく参加協力できた 96％→96％部活動に積極的に取り組んでいる 81％→81％ ・教員に言われて活動する場面が見られる	・執行部加入も含めて加入率95％以上を目標とする。 ・執行部への1・2年生の積極的参加 ・生徒会執行部会およびクラブ運営委員会が定例化し、活性化している。 ・生徒自身が主体的に体育祭・学校祭等生徒会活動を企画運営している。	・部活動未加入者への執行部・学校祭実行委員会への参加呼びかけをする。 ・LHR等の学年レクリエーションにおいて執行部員を活用する。 ・会議を定例化し、GoogleClassroomを活用する。 ・他校の学校祭の見学や執行部との交流を推進する。
2 生徒の夢や希望が叶えられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身につけていない。 ・就職希望者支援体制についてはできてはいるが、進路指導に関しては、個別指導による部分が多い。 ・昨年度も就職内定率が100％であった。 ・リモートによる応募前職場見学や面接試験、適性検査が増加し、進路部職員だけでは対応できなくなりつつある。	・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育を充実させる。 ・学習指導委員会による進学支援体制を確立させる。 ・年度内に就職内定率を100％とする。	・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 ・1年次から進学者補習を計画して、大学・短大や医療系専門学校を希望する生徒の学力向上に努める。 ・進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ・12月から2年生の進路指導に取り組み、生徒が進路実現に向けて行動できるよう計画的に個別に指導を行う。 ・リモートに対応するため、3年学年団にも協力を依頼する。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。 ・4月の面接週間に3年生就職希望者に対する進路部との面談を行い、進路指導がよりスムーズに行われるようにする。 ・1年生対象の進路講演会を早期に開催することで、基礎学力の必要性を理解させ、向上を目指すよう取り組ませる。
	将来のスペシャリストの育成（資格・検定の取得やインターンシップ）【進路部】	・進路部で資格・検定を推進している。各科で目標としている資格・検定に挑戦している。 ・インターンシップ・デュアルシステムの実施については徐々にコロナ過前の状況に戻ってきている。	・資格取得を意欲的に取り組ませる。 ・低学年から進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムを充実させ、勤労観・職業観を育成する。	・資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ・多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	・生徒の基礎学力や学習意欲に大きな差がある。定期考査や資格取得などに関する学習には意欲的であるが、授業に向けた家庭学習時間は少ない。 ・授業時間数の偏りが生じている。 ・売り買いボードの活用状況は十分ではない。 ・進路に応じた選択科目の履修ができるよう説明会を実施し、生徒の実態と進路希望に合わせるため学校設定科目を設置し対応している。	・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・ICT端末が授業での利用だけでなく、進路選択につながる情報収集ツールとして活用されている。 ・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 ・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。	・生徒の興味・関心の幅を広げ、生徒が自発的に知識と情報を求めるようなICT端末の活用となる方法を検討する。 ・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的に行い、授業が自習時間とならないように取り組む。 ・選択説明を丁寧に行い、進路希望に合った履修を促す。
	思考力・判断力の向上【教務部】	・生徒は落ち着いて生活しているが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。	・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多くいる。	・思考力の向上やICT機器の活用に向けて、全教員が参加する授業研究会を実施する。 ・学校行事、科の取組み、成果発表、ボランティアなど、校内・校外を問わず、生徒が活躍できる機会を増やす。
	地域とともにある学校づくり（学校運営協議会）【管理職】	・コロナ禍で、学校運営協議会委員の学校への訪問はほぼ学校運営協議会に限られた。ただし、学校運営協議会では今後の学校の在り方に資する意見や助言が得られた。	・学校運営協議会の委員や地域の方の来校があり、地域に開かれた活気のある学校になっている。	・学校運営協議会の更なる活性化と地域と協働した活動を計画する。特に地域に生徒の顔が見える取組を増やす。
	地域への情報発信（積極的な広報活動）【総務部】	・ホームページの記事のアップは1月25日現在で224件、アクセス数も98, 719であった。学校全体で情報発信の意識が上がっている。	・ホームページ記載更新が行われ、学校行事、各科の学習活動、部活動の大会状況が配信されている。 ・学校ホームページの閲覧者が多く、地域と連携した活動が盛んに行われている。	・学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページやSNSへの掲載を依頼する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報を提供する。 ・ホームページがさらに充実するように、更新頻度の少ない学習活動・部活動に依頼する。 ・意識してホームページのアップを心掛けるとともに、より見やすいホームページを目指す

年度当初				
評価項目	評価の具体項目	現状		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策
3 地域に愛され、信頼される学校づくり	地域・産業界との交流【各学科】	M ・二年間途絶えていた自動車整備体験学習への参加や、課題研究を通した上北条コミュニティセンターとの交流・連携を図る機会が増えつつある。	・課題研究や検定指導において、地元企業や社会人講師と連携しながらものづくりに取り組む。	・学校ホームページや課題研究発表会などあらゆる機会を通じて、科の取り組みについて積極的に情報発信し、連携の機会を増やしていく。
		E ・鳥取県電気工事業組合との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動について、地区民生委員の方と電業協会中部支部と連携をし、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業との交流が図られている。 ・地域の家庭に出向き、奉仕活動をする事で地域住民との連携が図られている。	・鳥取県電気工事業組合との意見交換会でイルミネーション設置について、アイデアの提案等を行う。 ・「電気の技術を生かした福祉活動」の活動前後で民生委員、電業協会、教職員・生徒との意見交換を行い連携をとる。
		C ・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」ともに予定通り開催できた。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」を通して、地域の方々との交流や事業所との連携から、地域産業の理解が深められ郷土愛が育まれている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の学習内容の充実に努める。
		D ・昨年度は、課題研究(保育分野)で認定こども園計6回、「生活と福祉」の授業では2・3年とも一回ずつ高齢者福祉施設でのリモート交流を行った。その他の保育交流や企業見学はコロナの感染拡大により中止となり、高齢者福祉施設は立ち入り禁止の状態により訪問できなかった。	・認定こども園や高齢者福祉施設での交流や実習を実施し、職業観やコミュニケーション技術の育成をする。 ・ボランティア活動への参加者を増やす。 ・企業見学を実施する。	・交流活動や実習ではねらいを明確にし、コミュニケーション活動が円滑に行われるように指導する。また、観察を通して職業理解が深められるように計画する。 ・実施時期の計画を早めに行い、延期できるように時期を設定する。 ・ボランティア活動のアナウンスを積極的に行う。
4 専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、チャレンジ精神に富んだ人材の育成【各学科】	M ・製図検定や各種技能検定など、資格取得に積極的に挑戦する生徒が増えてきている。	・ジュニアマイスターのゴールドやシルバー取得を目指す生徒が増える。	・授業や実習内容と関連づけながら、生徒へ資格に関する情報提供の機会を増やす。
		E ・社会人講師活用事業において、鳥取県電業協会中部支部に電気製図の指導を受け、生徒の知識・技術の向上を図ることができた。 ・新型コロナウイルスの関係で、鳥取県電業協会中部支部から高校生ものづくりコンテストに向けての技術指導を受けることができなかったが、1名の生徒が中国大会出場を果たした。	・生徒の電気工事、電気製図などの知識・技術が向上している。 ・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受ける機会を作り、生徒の知識・技術の向上を図る。
		C ・学年により、資格取得の取組の差が成果にも表れている。 ・クラス内で生徒間に学力差があり、一斉授業での指導に工夫を要する。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。	・可能な限り、習熟度別や少人数の授業展開に取り組む。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、上位級取得目標の生徒や学力不振生徒に対応していく。
		D ・専門科目の授業については真面目に取り組んでいるが、知識と技術の定着には時間がかかる生徒が多い。全体的に控えめで、チャレンジ精神旺盛とは言えない。	・身に付けた知識と技術の確認と定着のためにも、検定試験を積極的に受験する。 ・コンテストへの応募や、ボランティア活動など外部の活動に参加する。	・各種検定・コンテスト・ボランティア活動への参加を促す。
	学科の枠を超えた取組の実践(総合選択制)【各学科】	M ・自分の進路に沿いながら、他学科の科目を選択し習得している生徒が増えている。 ・他科からの様々な要望に応えることで、生徒が達成感を感じられた。	・総合選択制を活用しながら、自分の個性にあった主体的な科目選択が生徒自らできている。	・シラバスなどを活用し、選択科目に関する丁寧な説明を行い、生徒にとってより良い科目選択が行えるよう情報提供の機会を増やしていく。 ・課題研究などの時間を活用し、柔軟に対応できる時間をつくる。
		E ・「くらそうや」において「おもちゃの病院」を開き、おもちゃの修理を行うことができた。 ・「くらそうや」への「商品提供」を行うことができた。	・「くらそうや」に電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができている。	・課題研究「テクニカルボランティア」をとおして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。また、課題研究の中でもアイデアを出して、商品作成を行う。
		C ・課題研究「くらそうや」において、他科から販売商品を提供してもらっている。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得している。	・課題研究「くらそうや」の商品を提供する他科に、消費者の反応や意見をフィードバックすることで、ニーズある製品作りに活かされている。 ・ビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらそうや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴く。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」「ビジネス基礎」の魅力を伝え、履修を促す。
		D ・ビジネス科と連携し、くらそうやへ商品提供を行っている。	・くらそうやへ商品を提供する。 ・工業科とも連携する。	・くらそうやについては昨年度の取り組みを振り返り、商品の製作の工夫を行う。 ・他学科との情報交換を積極的に行い、連携の方法を検討する。
5 業務改善の取組	長時間の時間外勤務者の解消【管理職】	・R4年度4～12月における月平均時間外業務時間は、前年度を5時間(R3:24.2→R4:19.7)下回った。 ・R4年度月平均時間外業務時間が50時間を超える教職員はいなかった。 ・学校評価アンケート(教職員)によると教職員のワークライフバランスの評価が低く、業務量の減じた分が必ずしも生活の質の向上につながっていない。	・年間の時間外業務時間が360時間を超えない。 ・職場全体に業務を分担する土壌があり、チームで仕事をこなす意識が浸透している。 ・衛生委員会で職場の安全衛生管理について建設的な意見が交わされている。	・業務の可視化を推進し、誰もが他者の働きぶりに関心を持ち、職場で支えあえる環境作りを促進する。 ・一人一人が自分の働きぶりを振り返り、業務の優先順位を意識しながら、計画的に業務を進めることで、時間外用業務の削減とともに、多忙感の解消を図る。 ・週休日振替の取得を徹底する。

A [90%以上] B [89～70%] C [69～50%] D [49～30%] E [29%以下]